

## 教室 AV 設備の整備：新座

### 1. 概要

新座教室もここ 2～3 年の間で AV 更新を迎えた教室が多く、1 号館から 3 号館の中で主に 100 人教室や 200 人教室を中心に更新が行われた。今後は残りの 50 人前後の演習室設備や、一部 300 人前後の教室が予定されており、それらが実施されれば一通りの完了となる。そこで今回新座側の AV 設備を紹介するに当たり、以下にシステムの特徴や施工時の特に苦労した点などについてお話をしてみたいと思う。

### 2. 新座教室 AV の特徴

従来教室では同規模教室の中でも教室毎にシステム内容が異なり、いくつかの操作に関する特徴などを覚える必要があり、又全般的に操作のわかりにくい面が多かった。しかし更新後は操作卓面上のパネル類がすべて同一方式となり、一度覚えればどの教室でも同じ感覚で操作が可能となり、操作ミスによるトラブル発生もだいぶ改善されたと感じる。(特に外部講師の方には喜ばれている)

その他パネルの位置やパネル内スイッチの配列、更には操作卓内機器の収納レイアウトなども細部にわたり検討が加えられ、操作性も向上された。



#### ◇写真説明

新座操作卓内の操作パネル及び  
外部入力パネル・・・左側

新座中規模 AV 教室 N312・・・右側

### 3. AV 更新時特に苦労を要した点

2009 年夏に N121 教室の AV 更新が行われた。N121 教室は新座で一番大きな教室となり、500 人弱の学生を収容できる。1 号館の 2 階にあり、校庭に面していて正門からは一番近い教室となる。階段教室の室内も重厚な木目調の造作壁に囲まれ、新座教室のシンボリックな面も感じられる。

その様な教室で AV 更新を実施するに当たり、機器のシステムは当然であるが、更に室内の衣装的な面までグレードを要求された。つまり具体的に説明すると、サブスクリーンを設置するに当たり、室内入口近くの上部壁に凹凸の造作物があり、スクリーンが設置できなかった。そのため管財担当者に撤去を申し入れたが、重要なデザイン物につき許可が下りなかった。

その後いくつか案を出したが、なかなか思いも一致せず、納期も迫り、焦りかけていた時業者が造作物を短くカットし、その下にスクリーンボックスを設置するデザインを提案してきた。これで管財担当者に連絡し、ようやく許可となった。

その後早急に造作工事に取り掛かった。幸いにも業者の中に腕ききの大工がおり、仕上げに関しては特別問題は発生しなかった。しかし塗装の段階で従来パネルとの調整が難しく、三度ほどの塗り直しを行い、ようやく完成の運びとなった。これは余談であるが、同時期建築補強工事で大手建設業者

の下で年配の塗装業者が同じ塗装を行ったが、こちらは即合格している。色合いも既存壁とうまくマッチしていた。さすがベテランの技には頭が下がる思いをした。

以上のように悩み苦しみながらも従来の雰囲気を残しつつ、うまくサブスクリーンを設置する事が出来た。

## 【N121 教室の様子】

◇写真の説明について

### 写真 1

更新後の現在の新座 N121 教室風景

- ・メインスクリーン ワイド 300 型電動昇降
- ・サブスクリーン ワイド 200 型電動昇降 (2面)
- ・ステージ右端 操作卓設置



写真 1

### 写真 2

従来の入口付近上部造作壁

- ・左右入口付近壁上部に三角型の造作 3 個あり、右端の造作はスピーカーが収納されている。



写真 2

### 写真 3

サブスクリーン設置状況

- ・造作 3 個の下部をカットし、スクリーンボックス用の造作を加工した。
- ・造作や付近の壁は周囲の既存壁の塗装に合わせた。



写真 3